

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 7月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102905		
法人名	医療法人 和光会		
事業所名	グループホームファミリーケア大黒町		
所在地	岐阜市大黒町3丁目12番の1 (電話) 058-259-3219		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年7月13日	評価確定日	平成 19年9月26日

【情報提供票より】

(平成19年6月27日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5名 非常勤 4名 常勤換算	6.28名

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	12,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	100,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	50~100 円
	または1日当たり 800 円		・月額 25,000円	

(4) 利用者の概要

(平成19年6月27日 現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 83.3 歳	最低	77 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田病院、 訪問看護ステーション和光
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地の交通量のある道路から一步中に入った静寂なところであり、ホーム裏手の中学校から、子供たちの声が聞こえてくる。地域の要望によって作られた経緯があるため、大きなふれあいセンターがホーム隣室にあり、地域との交流の拠点として活用されている。そのため地域の方の出入りも盛んであり、鍵の施錠は一般家庭と変わらない。利用者の表情は明るく、外部の方が訪問すると、お客様として利用者がもてなし、訪問者も違和感なくホームに迎え入れられる。管理者は、「利用者が望まれる」「その人らしく」の、暮らしの支援のために、真心をこめて接しており、常に職員と話し合い、安心と笑いがあるホームにしたいという思いで、一丸となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回1カ所あった課題は改善されており、今回、改善となる箇所は特にない。自己及び外部評価への取り組みも全体的に底上げされており日々の努力の様子が伺える。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事業所としての自己評価を年2回、職員自身の自己評価を1回行いチャレンジシートでの目標設定や達成度評価を行っている。食は視覚で季節感を、一日の始まりはまずゆっくりとお話することから、失敗しても大丈夫、話しやすい雰囲気や場の提供をしているか、常に話し合っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	「ふれあいセンター」を会議開催場所とし、利用者の家族を始め、地域役員や包括支援センター職員が委員になっている。ホーム紹介のための映像を作成したり、地域と係わりが持てる場とし、うまく活用している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の方には、どんな小さなことも気付いた点を電話してもらえよう常に伝え、出された意見は職員間で共有し、ミーティングで話し合い、今後に活かす姿勢で傾聴している。また、不安や苦情の申し立ては、複数のルートが用意され直接申し出難い方への配慮をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の要望から作られた経緯もあり、地域住民との顔なじみの関係や同じ場所で何かをするという関係ができています。運営推進会議の開催をきっかけに中学の校長先生や民生委員、人権擁護委員の方々に参加してもらえるよう取り組みたいという意向がある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民の要望から生まれたホームであり、母体法人は、地域社会への貢献、医療と福祉の融合を構築、満足されるサービスの提供を理念に挙げている。それを基に「ゆたかにおおらかに・・・」の語句の中に「大黒町の願い」とし、ホーム独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向け、目標を立て、達成するために必要な人材や資源を書き出し、計画を立てている。目標が達成できたか全体会議で半期毎に見直しを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの居間と台所の横に地域住民とともに活用できる「ふれあいセンター」を開放している。自治会の会合、老人会活動、また、運営推進会議の会場に活用し、地域住民のセンターへの訪問があり、利用者によるもてなしが行われている。	○	今後の取り組みとされている、運営推進委員会の委員として中学校の校長先生や権利擁護委員、民生委員の方々への働きかけに期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、共にケアの質の向上に熱心に取り組んでおり、前回の課題をホームとして実践可能な形として対応した。書類については効率的な、連携の取れるような工夫がされ、今後も使いやすい様式への取り組みを継続していく。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの1年間の活動を映像化したものや、配布資料で報告している。外部評価やホーム内の状況報告を行い委員からの意見をもらう機会としている。住民から、よりホームの中が分かるようになったとの声も届いている。	○	ホーム「ふれあいセンター」で開催される運営推進会議において、参加される地域の委員の方々に協力を得て、防災時に地域からの協力が得られるとよい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターが開催する予防教室の会場として隣接するホール「ふれあいセンター」を提供している。その機会にホームの概要説明など行い、行政や住民への啓蒙に勤めている。行政との連絡も日常からこまめに行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族や友人との関係が継続することを大切にするケアを行ってきている。暮らしぶりの報告や、金銭管理の報告はきちんと行なわれている。家族とはきめ細かい連絡を取り合い、家族やそれまでの介護者の生活をも配慮した連携に取り組んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしたり、家族訪問時にゆっくりお話を聞く時間を作ったり、意見を伝えやすい環境づくりをしている。ホームとして、2ヶ月に1回、ケアと職員について自由記載できるアンケートを行って意見をもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入る場合は、全入居者と顔なじみの関係が作れるように1対1の時間を設けている。又日常から出勤直後、30分ほどは利用者の方とお話をするように職員教育として取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人母体に教育委員会があり、個人の研修記録表が把握されている。ホームでは、職員の目標達成や悩みを定期的に聞くことを実践している。法人内研修やホーム内研修は、研修報告書に記載され、全職員が閲覧できるシステムとなっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会等に管理者が参加している。交流会での報告を全職員に伝達し、ホーム内のケアの向上に向け活用している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前から、本人と面会したり、本人にホームを訪問してもらい、顔なじみの関係づくりをはじめ。また、担当であったケアマネジャーや利用していたサービス機関から情報をもらい、なじんでもらえるよう取り組んでいる。また、入居1ヶ月間は1対1の配置、職員の増員等配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒にソファに座って話したり、食卓テーブルで調理や後片付け、昔話を聞いたり喜怒哀楽を共にし、教えてもらったり、支援をしたりの関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常的に、職員は利用者とともにゆったりと話す時間を持つことに心がけ、思いや希望の把握に努めている。また、家族や関係者から利用者の思いを聞くようにしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>これまでの生活歴や習慣を参考にして、本人が行きたい場所や楽しみを実行するために、職員、家族、地域の協力者などでチームを作り計画作成に活かしている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居開始後1ヶ月は特に生活に馴染めるように、ここにいていいと思ってもらえるよう配慮した計画で支援する。入居による家族関係の戸切れが起きないように、家族の情報ももらいながら、課題やケアについてミーティングを行い、計画の見直しを行なっている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療機関との連携体制を充実し、疾患の早期発見・治療支援の取り組みがあり、入院や機能低下の防止につながっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医療機関がかかりつけ医師である場合は往診があり、本人や家族の希望の医療機関への受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前に本人や家族には、原則ターミナルケアの対応は行っていない説明をしている。状況が変化した場合、職員で対応が可能か法人本部で検討し判断が出る。このような場合、家族にはたびたび訪問してもらい家族に細かく報告し、話し合いを実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「自立している方は、声掛けし見守る」「部屋に入る場合はノックをする」「不在時は洗濯物を持って入ることもしない」等を決め、守っている。情報の取り扱いの研修を実施している。法人として、「プライバシーマーク制度」の取得に向け取り組みを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその計画はあるが、利用者の毎日の状態に柔軟に対応している。夜間なかなか眠れず、遅くまで起きている方は、昼近くまでゆっくり休んでもらう対応も工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりには本人の得意や力に合わせ、できる部分で係わってもらっている。嗜好を把握した献立で、彩りや器に配慮し、デザート・飲み物まで手作りの楽しい食事風景である。料理のため、おもてなしのため、サロンエプロンはとても大きな役割を果たす。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は週3回の入浴であるが、入浴の習慣、気候や体調にあわせ支援している。支援は1対1で行われている。ほぼ毎日入浴されている方がほとんどである。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方にしかできないことや、長い間続けてこられた家事や趣味が継続実現できるように配慮するとともに、職員は裏方に徹し支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望を聞き、地域や法人の行事、散歩や近くのスーパーへの買い物、公園までの散歩、虫を見にと外出の支援が熱心に行われている。月に1回程外食を楽しみ、外食費は毎月の食費の中で工夫し用意される。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアを継続している。利用者の心理状態や状況を把握し、外出傾向がある場合についても全職員で十分把握し対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難・消火訓練は、年間、昼間2回・夜間1回実施している。利用者参加は昼間行い、救命訓練も取り入れている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスに配慮した献立で、濃い味付けを好まれる利用者には話しながらさりげなく配慮している。一日の摂取量を記載し、職員周知としている。嚥下力や食欲により、毎回柔軟な食事形態を変え、ゆっくりした食事での支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所や食卓テーブルのある部屋の外から、中学校運動場の生徒の声が届く。テレビを囲んでUの字に置かれたソファは、朝の職員との会話の席となったり、カラオケを楽しんだり、休息の場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切にされてきた品や入居後手作りされた作品が飾られる等その方らしい居室作りがなされている。衣類は、家族の協力を得て季節ごとの搬入とし整理されている。各居室は、全室南向きで採光が良い。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。